令和６年度 宮城県産業教育審議会第１回専門委員会　会議概要

日　時　　令和６年６月２７日（木）１０時から１２時まで

場　所　　県庁行政庁舎２０１会議室

出席委員　**佐藤（千）委員、成田委員、佐々木（道）委員、小泉委員、橋浦委員、太田委員、岩本委員、昆委員、髙橋（彩）委員、小池委員、志羽久委員、佐々木委員以上１２名全員出席**

県出席者　**伊藤高校教育課総括課長補佐　他関係職員（事務局）**

１　開　会

２　開会挨拶　伊藤高校教育課総括課長補佐

３　出席者紹介（別紙資料の通り）

４　委員の委嘱及び任命

・委員に対して総括課長補佐より委嘱状が交付された。任期は令和６年６月１日から令和７年３月３１日

・委員及び教育委員会紹介

５　事務局説明

（１）宮城県産業教育審議会専門委員会設置目的（資料１に基づき事務局より説明）

（２）今後の産業教育のあり方（資料２に基づき事務局より説明）

［事務局説明について、専門委員からの質問や意見なし］

６　協　議　（議長：佐藤（千）委員）

（１）「専門学科、専門高校等の現状と課題について」

資料３に基づく事務局説明：　令和２０年までの数値を想定して「今後１５年」という表現を用いる（別紙参照）

［委員からの主な意見］

【現在（過去）の勤務校での現状】

○　学校公開等の行事は魅力の一つである。理系人材育成にも取り組む必要があるのではないか。

○　専門高校は地域連携に関しても、周りを巻き込む方法等がすばらしい。普通科では地域連携が難しい。情報発信という点で県民にはよく伝わっていると思うが、先生方の負担は大きいのかもしれないと想像する。

○　農業高校で勤務している際に東日本大震災が起きた。校舎も失い大変だったが、その時も意識的に種々のコンテストに参加しＰＲに努めた経験がある。

○　広島県で勤務した際も中学校訪問を積極的に行う等した結果、定員割れを防いだということがあったと記憶している。

○　学校学科の特色の打ち出しで課題を打開したい。小中学校からのキャリア教育は絶対に必要。普通科の生徒たちはキャリア教育的な観点が欠けているように思える。
○　将来の進路について考える「産業社会と人間」という授業が１年次にあり産業に関する知識や将来の進路を学ぶが、目的意識が低い生徒にとっては友人と一緒の進路を選ぶ場合もあるようだ。
○　中学生への体験入学は実施しているが、小学生へもプログラミング教室やロープワーク教室等充実させてアプローチしている。年齢が進むと両親や地域、学校名等のフィルタがかかる。
○　水産系の学科では体験的・実習的な学びを充実させている。海に出ての実習など体験的学習が多いのだが、あまり外に発信されていない。水産は獲った魚を缶詰工場に送るイメージかもしれないが、今は相当衛生的な環境で実習している。
○　５年間で看護師の国家試験受験資格を取る。入学生は１４歳の段階で将来を見通した目的意識の高い生徒が入ってくる。国家資格であり、看護師合格者も大学卒業者が増えてきている。
○　他県の水産高校の例を見ると、全国から人材育成のために入学するほど充実した学びを有している例がある。宮城県の豊かな資源を活用しながら教育が発展していけばいい。
○　交流ひろばでは週に２回、地域住民などに製造したパンや野菜を販売して交流するイベントを行っている。農業系列の生徒が中心だが、他の系列の生徒も入れ、教科・系列の枠を超えた活動になっている。商業の生徒のレジ係、家庭系列はレシピなどを考え、パッケージに貼るなどしている。進学と教養系列はパッケージデザインやポスターで繋がりを持っている。教員ではなく生徒主体に進めていこうと取り組んでいるところである。

【専門学科・専門高校の課題】
○　目標をもって入ってくる生徒は学習への取組もいいが、そうでない生徒との学習への取組の温度差がある。
○　定員割れとのせめぎあいがあり、小学生もターゲットにした学校公開などを実施している。小学生の親が多く来校するので、義務教育世代に向けしっかり取り組まなければならないと思っている。
○　資格取得や専門的知識技術を学ぶという地域からの期待に応えきれていないのが課題。介護福祉士には６０日の実習が必要。施設からは求人の話が出るが、産業界からの期待にも結びついていないところがある。
○　（総合学科は）幅広く将来の進路意識を考えられるカリキュラムの一方、幅広い教科を用意するため教員の負担感は大きい。
○　介護福祉士を養成するという目標設定がある。しかしこのままでは人材不足を補うほど定員は充足していない。資格取得や専門知識の習得の部分も満たすことができない卒業生の数である。県北であり、交通の便もよくないので、人を集めるのが困難だが、社会の貢献というところにつなげていきたい。
○　職業観を醸成していくに当たって、生徒の精神的な面が以前とは変化してきている。継続的に系統的に指導していくのが難しくなってきている。
○　入学してから道を決めることができるのは総合のメリット。デメリットとしては、どっちつかずで入学する生徒がいること。
○　１８歳から働く人達のモチベーションをどうやって上げていくかということをよく考える。高校を訪問すると現場の先生方の認識があまり高くないように感じる。

○　専門高校と普通科の取り合いになるのではと懸念。自分の教科のことを考えるだけでなく普通科のことや、私立とのバランス等も見据えて考えなければならないという危機感を共有した。
○　中学生はどうしても普通科志向が強いという現状がある。本県でも志教育を推進しているので、もう一歩押し進めて系統立ててキャリア教育を進めてもらうことで、こういう人になりたいというイメージをつくれるようにすれば、専門高校を選択する人も増えるのではないか。なりたい像がないので、可能性を狭めないようにという意味で普通科から上級学校へ進学という道を選ぶことが多いと考えられる。

【地域連携活動】
○　農業科においては、地域連携活動等でこども園等に出向いて生徒が教えたりしている。中学校への出前授業に生徒も連れていき、手伝いをするなどの取り組みもしている現状であり、意識的に活動に臨んでいる。
○　専門高校からの進学というのも不利ではない。上級学校との連携、小中学校との連携等を図りながら、広く知っていただければ専門学科の生徒数も増えるのではないか。
○　実業系の学校こそ実習を大切にして、ドイツのように長期の実習を通じた教育等を行う等、地域の産業界から受け入れていただき、それを目に見える形でＰＲできればいい。
○　新学習指導要領では、実践的体験的な学習活動を通じて、資質能力を育成することを明確化しており、それに加えて職業人に求められる倫理観等を育成すると明記され社会貢献に協働的に働くことも書かれている。
○　社会教育の中でも若い世代の社会参画が重要で、ひいては地域づくりにもつながる。ある水産会社は、小学生やその親に対して親子で協働する体験そのものが必要とのことで体験会を行っている。将来こういう仕事に携わりたいという思いにつながることを期待する。

【情報発信について】
○　情報発信の重要性は普通科も同様。専門高校のほうがマスコミ等に取り上げられる魅力がある。今後は国際交流も見据えて協働する学びの在り方を作っていけるといいのではないか。
○　情報発信はオープンキャンパスなどを通して実施している他、専攻科の生徒に手伝ってもらいながら中学生や保護者にＰＲしている。ＳＮＳでの情報提供は重要で、普通科も含めてＸやインスタに移行を考えている。
○　ウェブページ等で中学生へのＰＲを図っているが、保護者のもつ「福祉・介護は大変だ」というイメージが壁になっている。いかにイメージを打破するかが課題だが、兄弟姉妹で入学するケースもある。
○　授業や実習の見える化が必要ではないか。普通科はオンライン化等でみえるようになってきている。SNS 等による広報も効果は高いと思われる。
○　目標をもって入学する生徒を増やすために情報発信が必要。保護者に向けた情報発信（YouTube、マスコミ等）が必要ではないか。

【今後の学校の在り方について】
○　少子化への対応としては新しい発想が必要。オンラインを活用した授業など。
○　小学校の段階から出前授業等を通じてイメージを変えたい。なくてはならない職業として位置づけられ、使命感をもって仕事ができることをアピールしていきたい。

○　実習については安全面への配慮とともに教員の意識の変革も必要。女子生徒も入りやすい工業の学校を作らなければと考える。
○　学級定数の見直しは必要ではないか。
○　沿岸部の少子化は加速化しており、遠方になると宿舎が必要となる。かつては下宿も多くあったが今は廃業しており、それも課題である。さらに通信制の学校が増えており、近隣の私立学校でも通信制を始めた。学びが自由になりつつあるのを感じている。
○　半導体の誘致等、産業集積が進んでいる。人材ニーズに対応できる専門高校の在り方を考える必要がある。熊本ではTSMCの進出で人材不足が加速している。本県でも同じことが予測されるので、対応を考えなければならない。
○　入社した人が充実した人生を営めるような体制ができているかを企業でも考えなければいけないと思った。
○　高校生は大学生と違ってインターンシップが３日間しかない。３日間を数回やるなどとして勤労感を醸成していくという考えもある。
○　高校生には、小さい子供が憧れるような存在になってほしい。リアルの体験を増やせればなお地域と密着した学校になるのではと考えている。
○　理系に進む女子を育成するようにということは大学等からも要請がある。理系の重要性については、専門高校等に行って、学ぶというのも良いのでは。挨拶等の基本的なコミュニケーションを含めて手厚く指導していると学校評価等でも評価されている。

【その他】
○　資料に入試倍率が掲載されているが、ランキングの上位にある学校・学科の分析は進んでいるのか。何らかの活躍か情報発信の成果か等、分析がされていたら教えてほしい。
○　キャリア教育を小中から行い高校、さらに大学まで繋げていく支援が必要なのではないかと考えさせられた。

（２）専門委員会調査について（別紙参照）

事務局：　答申をいただいたばかりではあるが、その方針を具現化する上で、今後、急速に進む少子化がもたらす影響や課題に思っているのと深化発展の工夫改善に向けた取り組み等について調査研究するために実施要領に基づく質問紙調査を実施することについて御了承いただけるか。方法や詳細については、後日、集約したものを含め、改めてご連絡する。
［意義なし］

事務局：　子供が少なくなる中での新しいアイデアを分析や考察の中に盛り込んでいただきたい。令和２０年の生徒の数を想像し導き出していただくことを期待する。よろしくお願いいたします。

１０その他、今後の日程等（資料５）

１１閉会